

NEXTAGE 100



2026年3月期 決算説明会資料

2026年5月

株式会社タカギセイコー [東証スタンダード市場 証券コード:4242]

<https://www.takagi-seiko.co.jp/>

- 注
- 当資料に記載された内容は、2026年5月現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した経営計画に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。また、業績見通し等の数値はその正確性を保証するものではありません。
 - 本資料は情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。
 - 本資料は弊社の著作物であり、弊社の事前の承諾なく、本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

[1] タカギセイコー 事業概要

[2] 2026年3月期 決算概況

[3] 2027年3月期 決算見通し

[4] 中長期対応方針の取り組みについて ～資本コストや株価を意識した経営の実現～

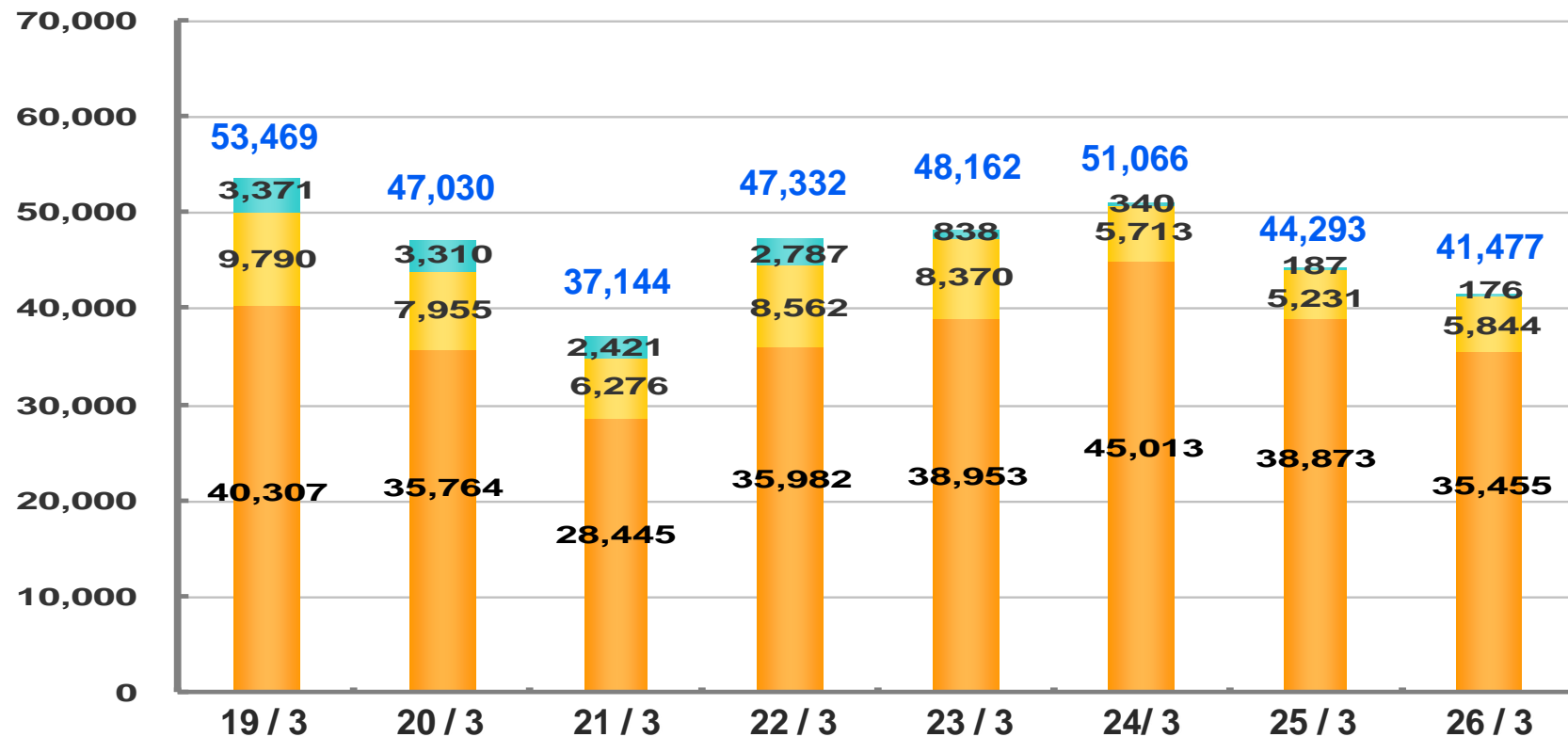
タカギセイコー 事業概要

社名	株式会社タカギセイコー（TAKAGI SEIKO CORPORATION）
創業	1931年4月 高木漆器店開業
設立	1959年8月（株）高木製作所設立
本社	富山県高岡市二塚322番地の3
代表者	代表取締役社長 高木章裕
資本金	2,163 百万円（2026年3月末）
売上高	41,477 百万円（2026年3月期、連結）
従業員数	1,849名（2026年3月末、連結）
事業内容	<ul style="list-style-type: none">○ 成形品事業（プラスチック製品及びその金型の製造）○ その他の事業（不動産賃貸及び損害保険商品の販売等）
連結子会社	国内1社、海外5社（2026年3月末） 持分法適用関連会社：国内1社、海外1社

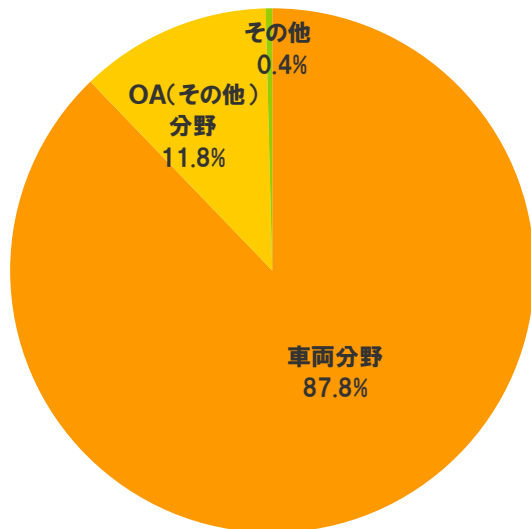
分野別売上高

[内訳] 車両 OA(その他) その他

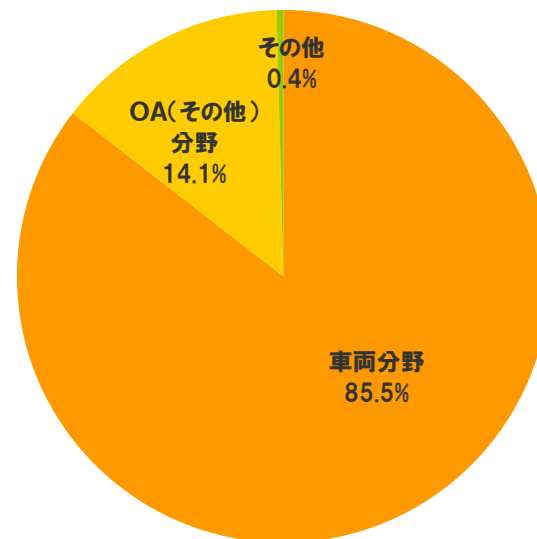
(百万円)



2025年3月期 分野別売上高



2026年3月期 分野別売上高



【主要顧客】

小松製作所
SUBARU

東レ
日野自動車

本田技研工業
ヤマハ発動機

(50音順)

主力製品（車両分野①）

NEXTAGE 100

TAKAGI SEIKO

〔四輪〕



クォーターピラー
ガーニッシュ



リアスポイラー



インテリア部品



カウルトップ
ガーニッシュ



ライセンス
ガーニッシュ



リアバンパービーム



サイドシルガーニッシュ



遮熱・遮音部品



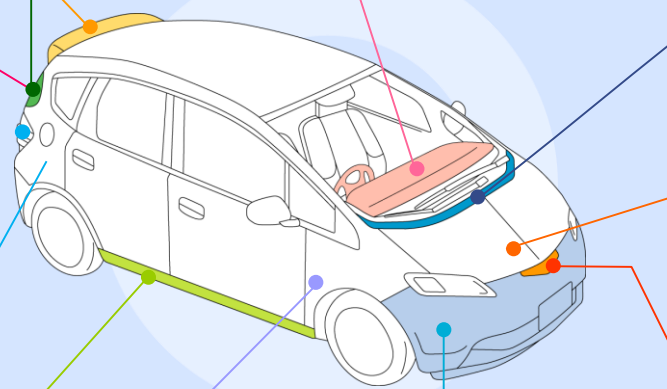
フロントバンパー



パワートレイン部品



フロントグリル



〔二輪〕



燃料タンク



トップ
シェルター



樹脂グリップ



サドルバック

[建設・産業機械]



トラック用ウインドディフレクター



農業機械用燃料タンク



尿素水タンク



船外機カバー

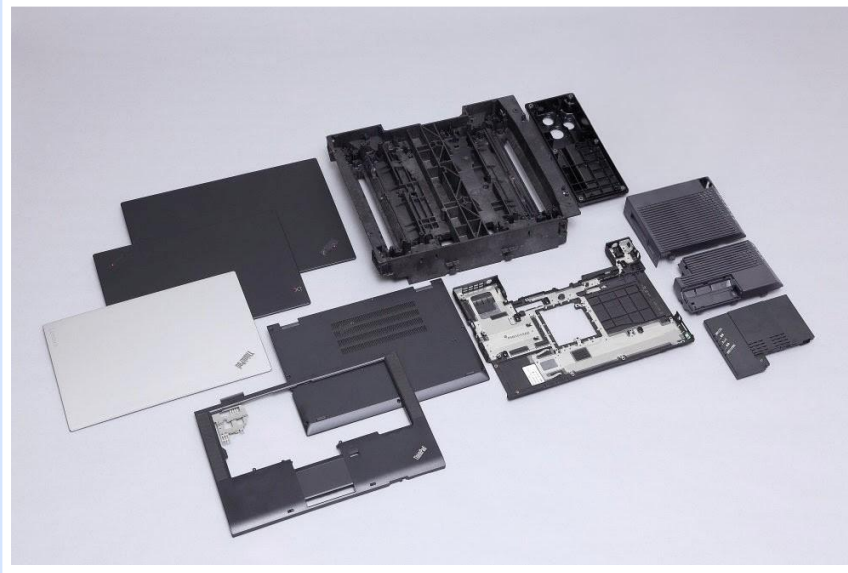


農業機械用カバー



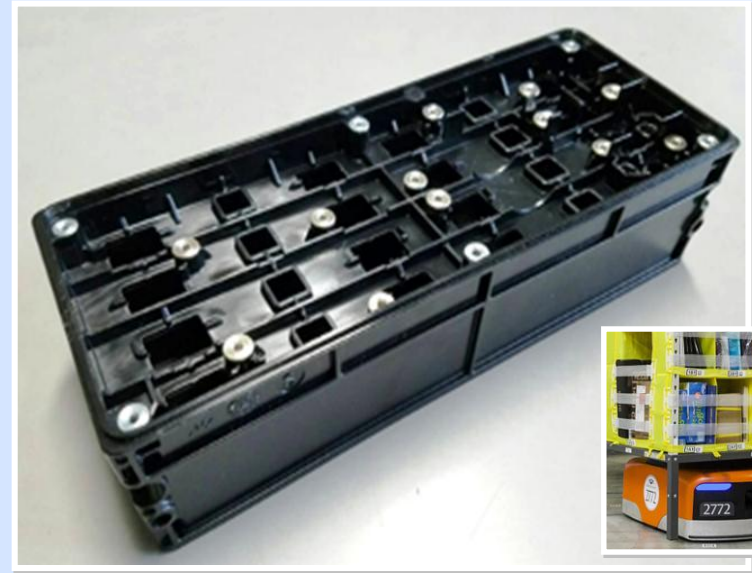
ダンプトラック用カバー

〔OA機器〕



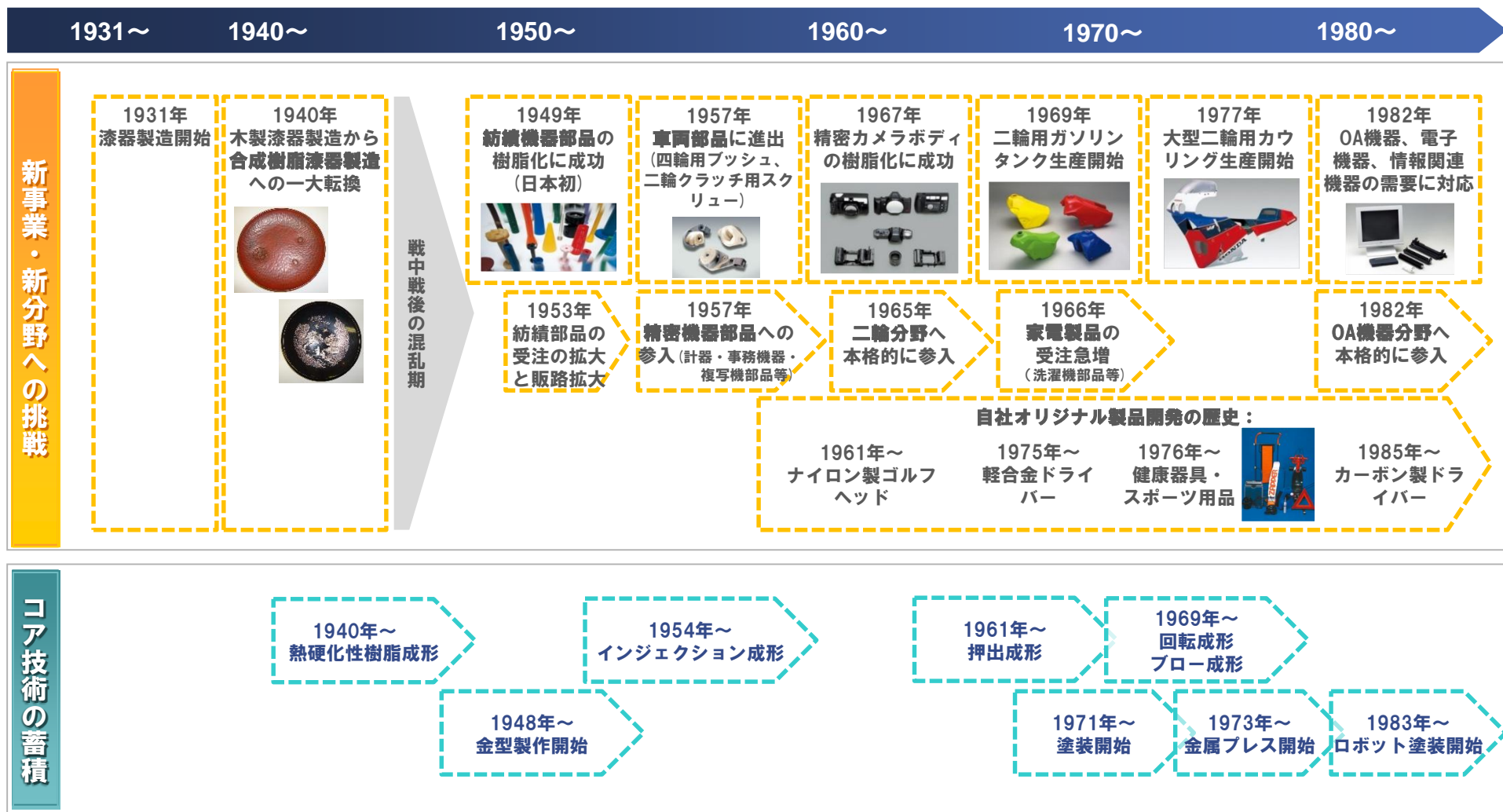
ノートパソコン用筐体部品
スマートメーター関連部品
データ通信用ルーター部品
バッテリー関連部品

〔産業用ロボット〕



倉庫内無人搬送ロボット用バッテリー部品

創業以来の技術・ノウハウの蓄積①



1931年
高木漆器店開業

1946年
高木製作所設立

1959年
(株)高木製作所へ改組

創業以来の技術・ノウハウの蓄積②

1990～

2000～

2010～

新事業・新分野への挑戦

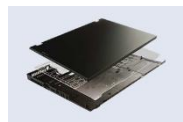
1989年
RIM成形法を開発
(日本初)



1994年～
携帯電話筐体製造の
シェアトップクラス



2005年
PCパソコン筐体用
CFRP板の製造



2006年
燃料タンクの米国
燃料透過規制に対応
(日本初)



2007年
ナイロン樹脂を
用いた二輪車燃料
タンクを開発



2013年
排出ガス規制対応の
尿素水タンク製造



2016年
複合材による四輪
構造部品を開発



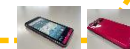
2017年
金属インサートに
よる四輪給配電部品



1989年～
四輪分野へ
本格進出

2003年～
自社製「洗浄剤」
の開発・販売

2009年
携帯電話・スマートフォン
筐体国内製造ピーク期



2016年～
医療機器分野
への参入

自社オリジナル製品開発の歴史：

1988年～
マリンスポーツ用品
「グッドデザイン賞」
受賞



1994年～
高チタン製
ドライバー



2004年
コンセプトカー
「タッカー」
誕生



2020年～
新事業・新商品提案
制度開始

コア技術の蓄積

1989年～
DCP-RIM
(日本初)

1992年～
ガスアシスト
(AGI) 成形

1997年～
ダイスライドイン
ジェクション
(DSI) 成形

2002年～
ミューセル成形
(日本初)



2016年～
高速スタンピング
成形

1988年～
CAD導入

1990年～
2色成形、
サンドイッチ成形

1996年～
スパッタリング
導入

1998年～
UV塗装導入

1999年～
真空蒸着導入

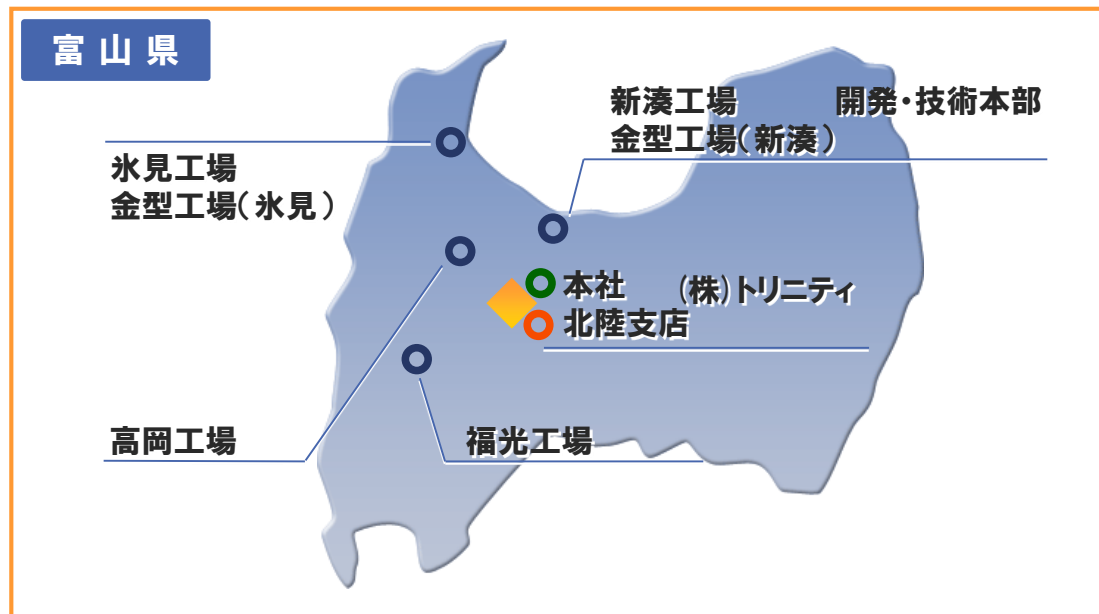
2004年～
振動溶着導入

1986年
㈱タカギセイコーへ
社名変更

2007年
JASDAQ上場

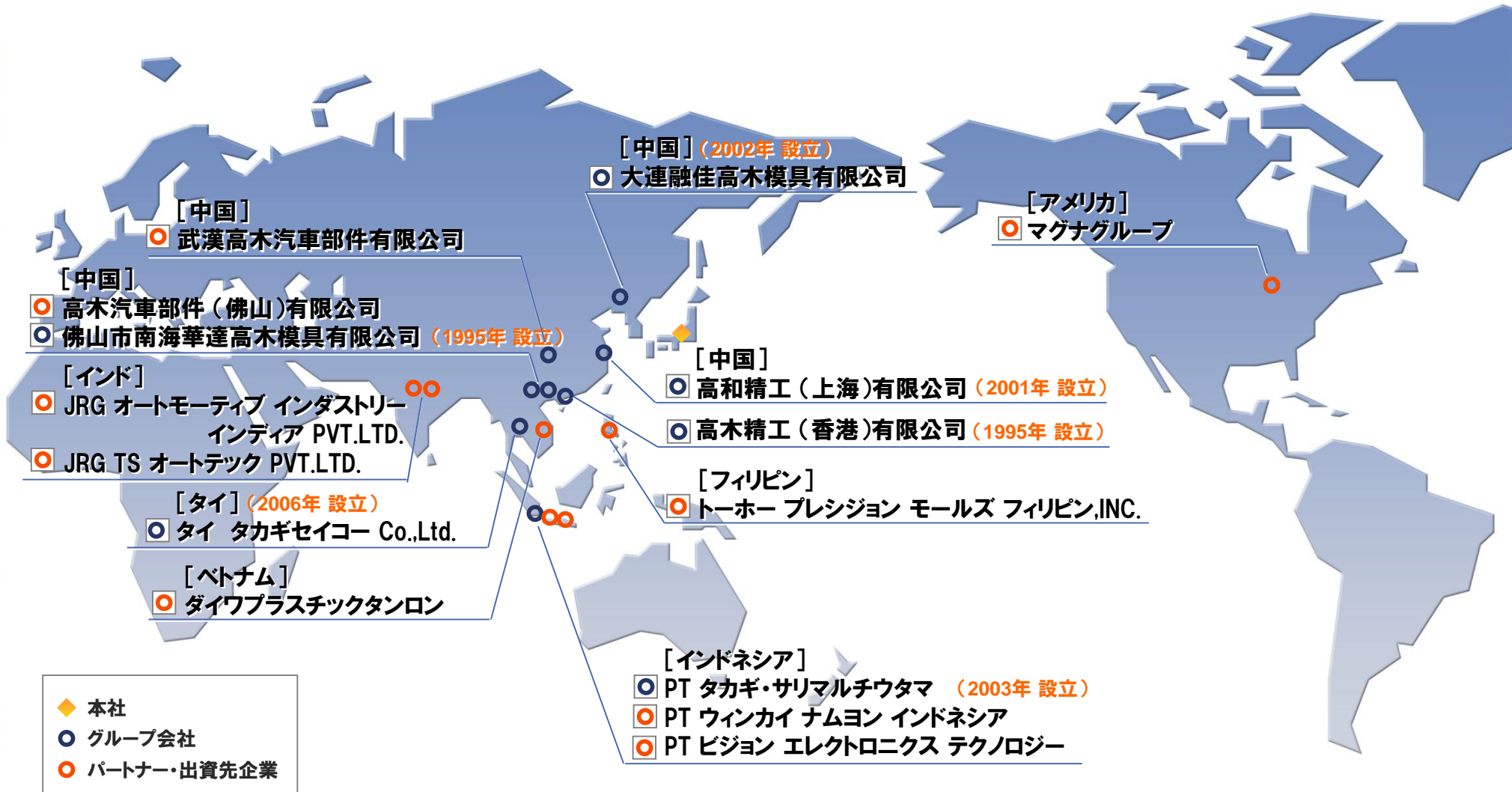
2022年
東証スタンダード
市場へ移行

関連会社と拠点網（国内）



2026年5月1日現在

関連会社と拠点網（海外）



2026年5月1日現在

2026年3月期 決算概況

2026年3月期 決算概況

(単位:百万円)

	2025年3月期		2026年 3月期 (予想)	2026年3月期 (実績)		増 減		予想比 増減
	金額	売上比	金額	金額	売上比	金額	率	金額 (%)
売上高	44,293	100.0%	40,050	41,477	100.0%	▲2,815	-6.4%	1,427 (3.6)
営業利益	1,163	2.6%	1,300	2,146	5.2%	982	84.4%	846 (65.1)
経常利益	1,272	2.9%	1,460	2,383	5.7%	1,111	87.4%	923 (63.3)
当期純利益	▲2,250	-5.1%	290	1,615	3.9%	3,866	—	1,325 (457.0)
設備投資額	1,822	—	1,290	1,681	—	▲140	-7.7%	391 (30.4)
減価償却費	2,249	—	1,660	1,643	—	▲606	-27.0%	-16 (-1.0)
為替レート								
中国人民元	21.67		21.16	22.36		0.69		1.20
香港ドル	19.22		19.82	20.40		1.18		0.58
インドネシアルピア	0.0098		0.0095	0.0094		▲0.0004		▲0.0001
タイバーツ	4.64		4.59	4.97		0.33		0.38

2026年3月期 所在地別の概況

売上高

(単位:百万円)

	2025年3月期		2026年3月期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
日本	22,531	50.9%	23,084	55.6%	552	2.5%
中国	8,907	20.1%	6,000	14.5%	▲2,906	-32.6%
東南アジア	12,854	29.0%	12,392	29.9%	▲461	-3.6%
連結売上高	44,293	100.0%	41,477	100.0%	▲2,815	-6.4%

営業利益

(単位:百万円)

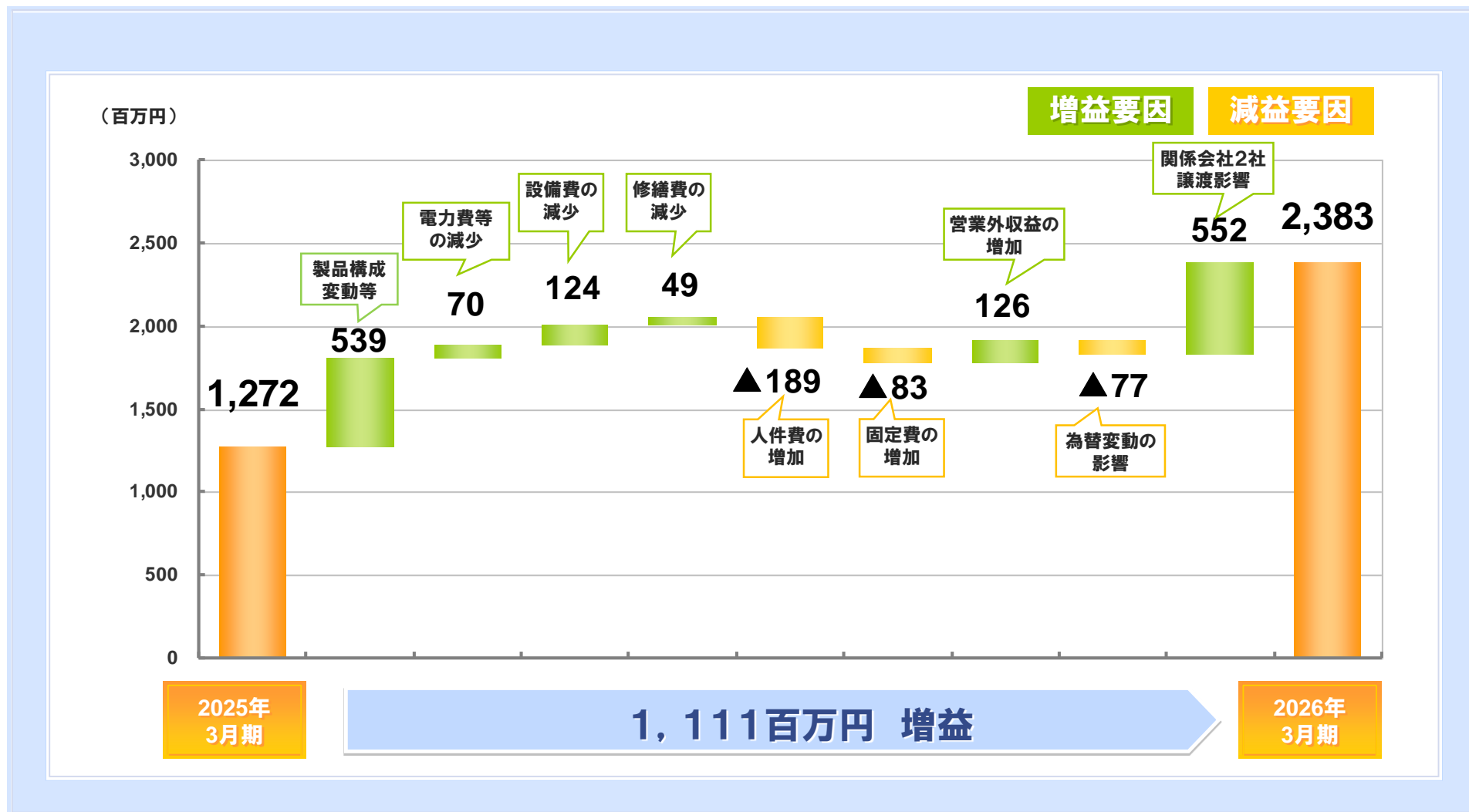
	2025年3月期		2026年3月期		増減	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
日本	412	1.8%	834	3.6%	422	102.4%
中国	▲693	-7.8%	▲154	-2.6%	538	—
東南アジア	1,441	11.2%	1,470	11.9%	29	2.0%
消去	2	—	▲4	—	▲7	—
連結営業利益	1,163	2.6%	2,146	5.2%	982	84.4%

2026年3月期 分野別売上実績

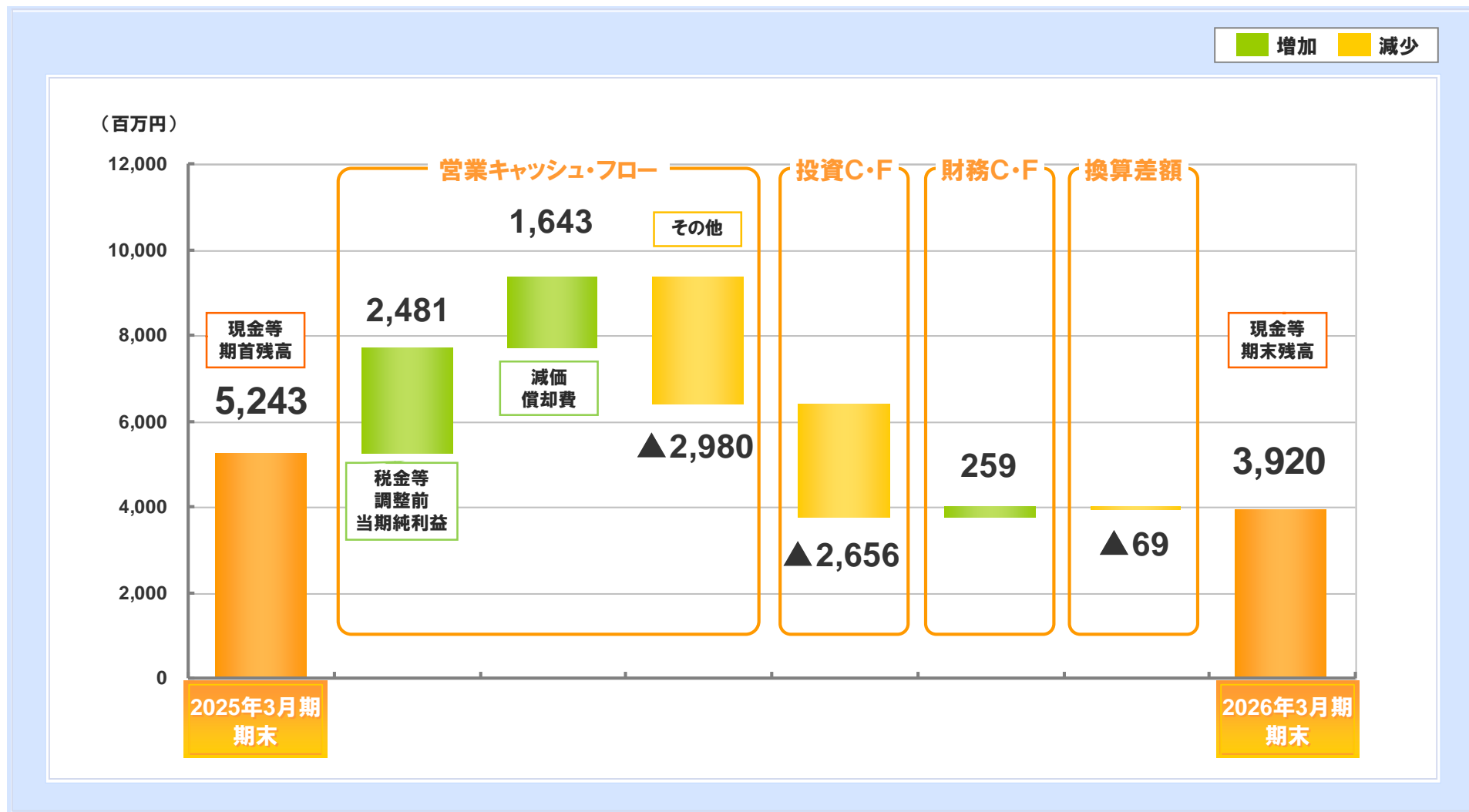
(単位:百万円)

	2025年3月期		2026年3月期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
車両分野	38,873	87.8%	35,455	85.5%	▲3,417	-8.8%
国内	21,044	47.5%	21,360	51.5%	316	1.5%
海外	17,829	40.3%	14,095	34.0%	▲3,734	-20.9%
OA(その他)分野	5,231	11.8%	5,844	14.1%	613	11.7%
国内	1,299	2.9%	1,547	3.7%	247	19.1%
海外	3,932	8.9%	4,297	10.4%	365	9.3%
成形品事業	44,105	99.6%	41,300	99.6%	▲2,804	-6.4%
その他の事業	187	0.4%	176	0.4%	▲11	-6.0%
連結売上高	44,293	100.0%	41,477	100.0%	▲2,815	-6.4%

2026年3月期 経常利益増減分析



キャッシュ・フロー増減要因



2027年3月期 通期決算見通し

通期決算見通し(連結)

(単位:百万円)

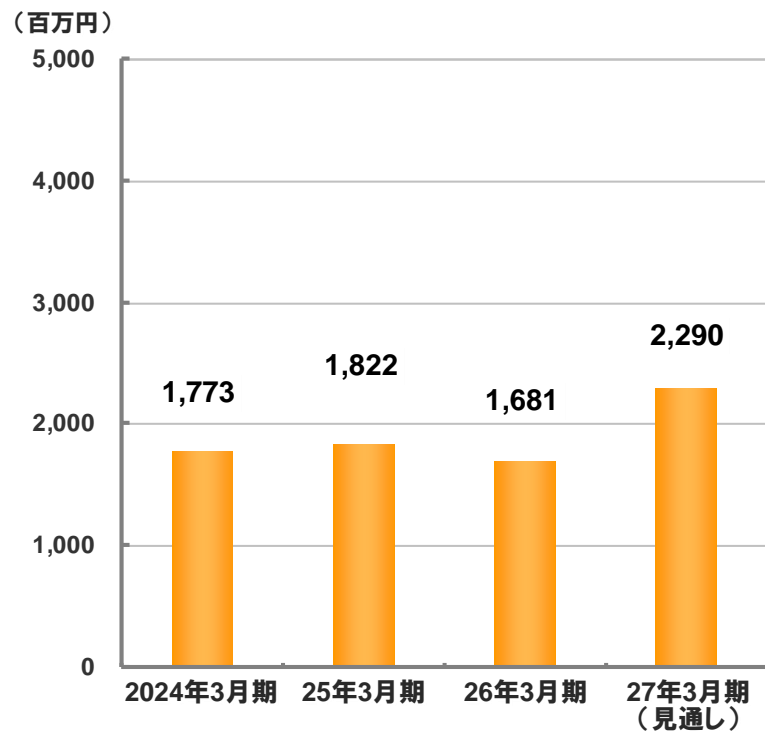
	2026年3月期		2027年3月期 予想		増減	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	41,477	100.0%	40,260	100.0%	▲1,217	-2.9%
営業利益	2,146	5.2%	1,630	4.0%	▲516	-24.1%
経常利益	2,383	5.7%	1,690	4.2%	▲693	-29.1%
当期純利益	1,615	3.9%	620	1.5%	▲995	-61.6%
設備投資額	1,681	—	2,290	—	608	36.2%
減価償却費	1,643	—	1,440	—	▲203	-12.4%
為替レート						
中国人民元	22.36		22.11		▲0.25	
香港ドル	20.40		19.68		▲0.72	
インドネシアルピア	0.0094		0.0092		▲0.0002	
タイバーツ	4.97		4.90		▲0.07	

通期分野別売上見通し(連結)

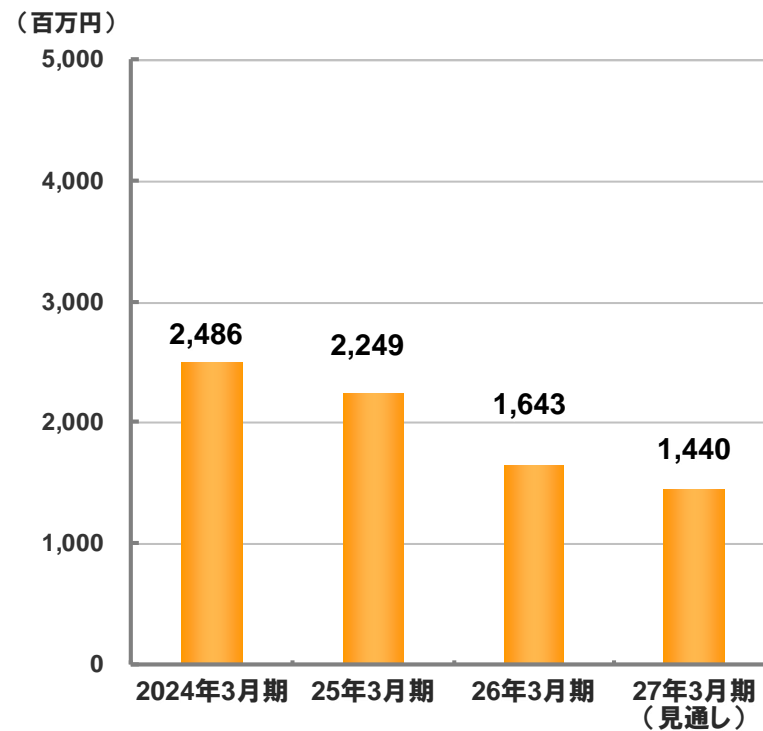
(単位:百万円)

	2026年3月期		2027年3月期 予想		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
車両分野	35,455	85.5%	34,260	85.1%	▲1,195	-3.4%
国内	21,360	51.5%	21,670	53.8%	309	1.4%
海外	14,095	34.0%	12,590	31.3%	▲1,505	-10.7%
OA(その他)分野	5,844	14.1%	5,850	14.5%	5	0.1%
国内	1,547	3.7%	1,450	3.6%	▲97	-6.3%
海外	4,297	10.4%	4,400	10.9%	102	2.4%
成形品事業	41,300	99.6%	40,110	99.6%	▲1,190	-2.9%
その他の事業	176	0.4%	150	0.4%	▲26	-15.1%
連結売上高	41,477	100.0%	40,260	100.0%	▲1,217	-2.9%

設備投資額



減価償却費



中長期対応方針の取り組みについて

～資本コストや株価を意識した経営の実現～
(2026年3月期決算を踏まえたアップデート)

2032年3月期 数値目標

連結ROE（自己資本利益率）

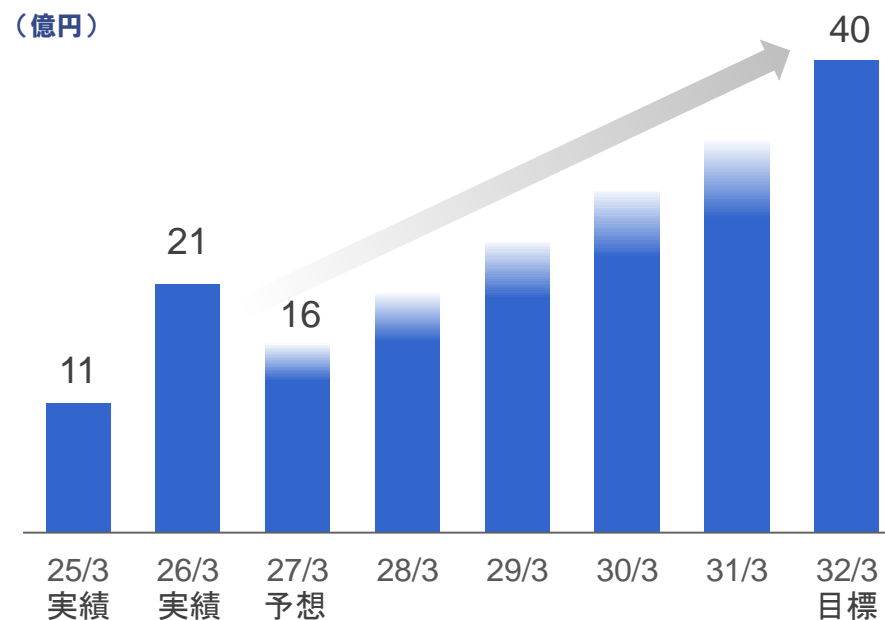
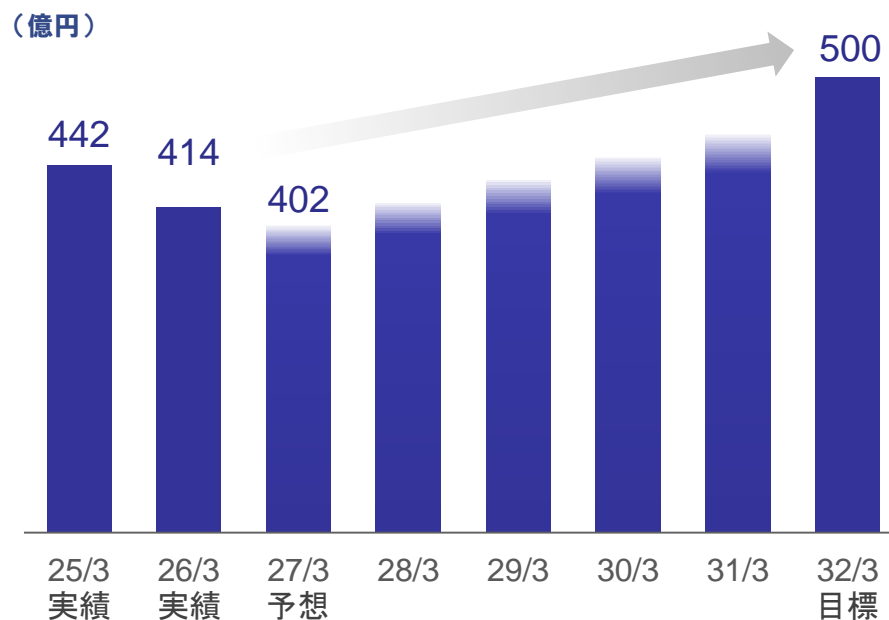
12%以上

連結売上高

500億円以上

連結営業利益

40億円以上



ミッション

社会の公器として永続する企業であること

- ▶ 様々に変化する事業環境の中においても安定して事業継続できることが必要
- ▶ 高収益体質な会社として、利益率を高めるとともに財務基盤を強固にする

誰からも信頼される会社（100年企業）

『タカギセイコーという会社があってよかった』

と言ってもらえる会社

※100年企業 = 永続企業

事業基盤の



安定

事業活動に対する



安心

お客様や社会の
課題解決に貢献する



有益

会社の活動や社員の
行動に表れる



社風

ビジョン 目指す姿

タカギセイコーが解決できる社会課題

気候変動への取り組みと 脱炭素社会の実現

温室効果ガスの削減
再生可能エネルギーの普及
カーボンニュートラルの推進

資源の有効活用と 循環型社会の構築

プラスチック廃棄物の削減
リサイクル技術の向上
資源の効率的利用

人口減少と高齢化社会 への対応

介護・医療分野の技術革新

デジタル化とDXの推進

産業のデジタル化
スマートシティの実現

プラスチックに秘められた無限の可能性を“カタチ”にする

チャレンジングな社風



当社のコア技術

- 成形法のバリエーションを活かした柔軟な対応力
射出成形 ブロー成形
回転成形 DCP-RIM
高速スタンピング成形
- 多彩な二次加工技術を駆使した付加価値創造
加飾技術：塗装・印刷・蒸着・フィルムインサート
接合技術：超音波/振動溶着・熱板溶着
アッセンブリ技術：自動検査による自動組立



当社の強み

- 顧客の商品企画・設計から金型製作、成形、二次加工まで自社で行うTS生産一貫システム
- 樹脂化設計段階からの参画を通じた顧客ニーズ実現
- 量産立上までの期間短縮と品質向上を可能とする
コンカレント・エンジニアリング・システム
- 多様な分野で培った豊富な経験と技術力
- 新しい技術への挑戦で未来を切り拓く力
- 時代の最先端分野への対応力
- 多様なソリューションによる、顧客課題の解決力

タカギセイコー 成長の原動力

中長期対応方針

様々に変化する事業環境の中においても
安定して継続的に事業展開できる基盤づくり

国内収益基盤の強化

生産品目の選択と集中
差別化技術の開発
新規分野・お客様の開拓
効率生産体制の確立

海外収益基盤の強化

海外市場の見極めと投資検討
効率生産体制の確立

事業運営基盤の強化

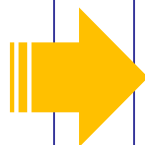
人材の育成 組織運営体制の更なる強化 財務体質の強化
内部統制システムの充実 環境にやさしい企業活動

国内収益基盤の強化

取組施策

国内施策①

- 生産品目の選択と集中

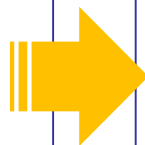


具体的実施事項

- 当社が保有するオンリーワン、ナンバーワン成形技術(回転成形・DCP-RIM等)を活用した製品の営業活動推進
- 顧客との関係強化に向けた技術交流会の開催
- 既存事業のポートフォリオを見直し、回転成形・DCP-RIMの生産能力増強に着手

国内施策②

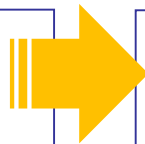
- 差別化技術の開発



- 固有成形技術の高度化に向けた開発推進(回転成形法による水素タンクライナーの開発推進)
- 新たな成形技術の導入に向けた開発推進

国内施策③

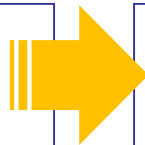
- 新規分野・お客様の開拓



- 固有技術を活かした新規顧客開拓の推進
- 差別化技術による新製品・新事業領域の創出

国内施策④

- 効率生産体制の確立



- ロボットやAI技術の導入による自動化推進
- 生産工程のDX化推進(新湊工場にて、生産の見える化とデータ分析を可能とする当社独自システムの稼働開始)

国内施策① 生産品目の選択と集中：既存事業のポートフォリオ見直し

現状と課題

福光工場

▶ 回転成形 & DCP-RIM事業

いずれも当社の特徴ある技術であり、需要拡大が見込まれる分野。**生産スペースの確保が課題**となっている。

高岡工場

▶ 金属プレス事業

「生産品目の選択と集中」の一環として、金属プレス事業からの撤退を決定。

事業ポートフォリオの最適化

福光工場の回転成形事業を高岡工場へ移管

自動化・省人化設備導入



再編後の姿と効果

高岡工場

生産能力
20%UP↑

▶ 回転成形事業の専用工場
および最先端技術開発拠点へ

今後の新規受注増加に対応できる生産スペースを確保し、**高効率生産体制**を整備。水素タンクライナーなど**最先端技術開発拠点**の役割も担う。

福光工場

生産能力
30%UP↑

▶ DCP-RIM事業の専用工場へ

回転成形事業の移管により創出されたスペースを活用し、**拡販**が期待できるDCP-RIM事業に**リソースを集中**。将来のさらなる**拡張余地**を確保。

国内施策② 差別化技術の開発：回転成形法による水素タンクライナーの開発

水素利用拡大に向けた高圧水素タンク用ライナーの大型化・薄肉化および低コスト化を実現するための「次世代回転成形機」の設置を完了し、試運転を開始

● 高圧貯蔵水素タンクのタイプIV向け

- ・高ガスバリア材を採用したライナーの大型化、薄肉化
- ・回転成形におけるハイサイクル化と薄肉化の成形技術開発
- ・CO₂を直接排出しないカーボンニュートラルを目指せる成形システム

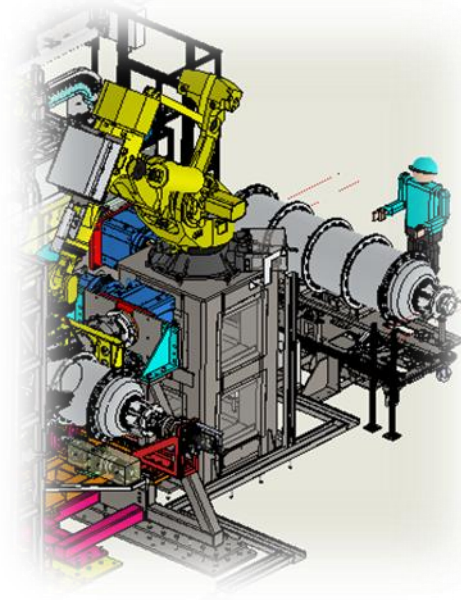
■ 試作状況



試作品 (Φ600mm×2,000mm)



次世代回転成形機



次世代回転成形機 (アイソメ図)

※この成果は、NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)の補助事業の結果得られたものです。

海外収益基盤の強化

取組施策

具体的実施事項

海外施策①

○ 海外市場の見極めと投資検討

- 各国の市場性、成長性、持続可能性、リスク等を基にした事業判断(進出・増強、縮小)
→ 中国の連結子会社2社を譲渡
- 新たに事業展開する場合の多様な展開形態の検討(会社設立、出資、技術提携等)
- グローバルでの顧客との関係強化に向け、積極的な営業活動を推進

海外施策②

○ 効率生産体制の確立

- 省人化・効率化生産を目的とした自動化推進

事業運営基盤の強化

取組施策

運営施策①

- 人材の育成

運営施策②

- 組織運営体制の更なる強化

運営施策③

- 財務体質の強化

運営施策④

- 内部統制システムの充実

運営施策⑤

- 環境にやさしい企業活動

具体的実施事項

- 社員が成長できる機会の創出(階層別教育、職種別専門教育の充実)
- 会社に提言することで経営マインドを高めるワーキングチーム活動の実施

- 事業環境の変化に対応するための組織運営体制の見直し検討と実行
- 持続可能な事業運営の強化に向け、国際的ESG評価プラットフォームの取り組みに着手

- 継続的な利益創出による財務基盤強化を通じた財務健全性の確保

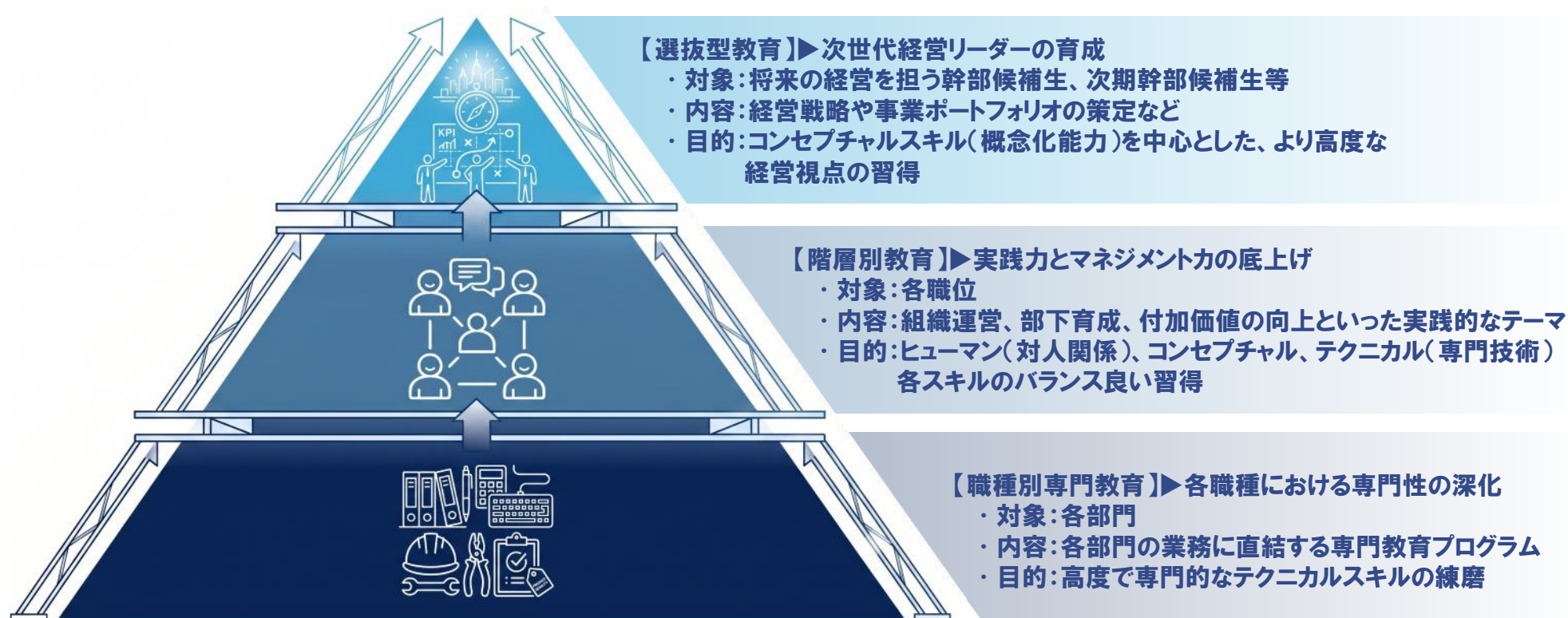
- 内部統制委員会(J-SOX法、コンプライアンス、リスク管理の各委員会)の活動推進

- 環境に配慮した生産設備の導入推進
- 廃棄物削減や資源循環の取り組み強化
- 再生可能エネルギーの活用推進

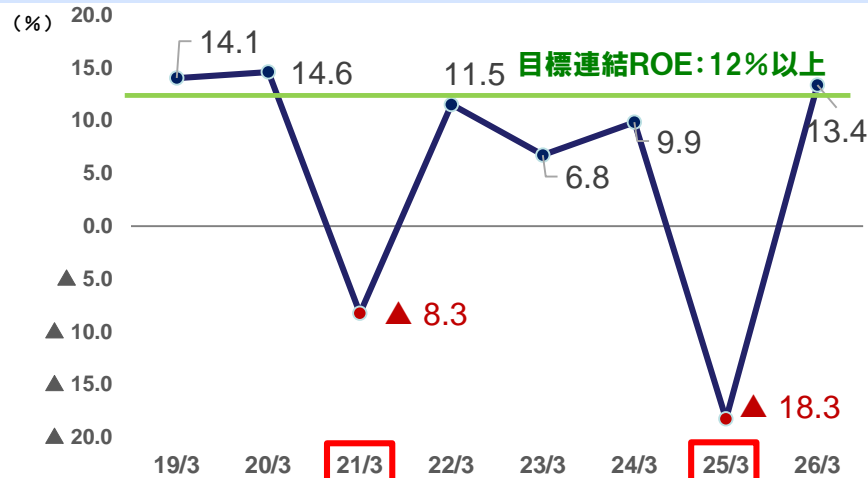
運営施策①

人材の育成：社員が成長できる機会の創出

人的資本への投資を通じた未来の成長基盤づくりに向け、階層や職種に応じた体系的な教育プログラムを充実化



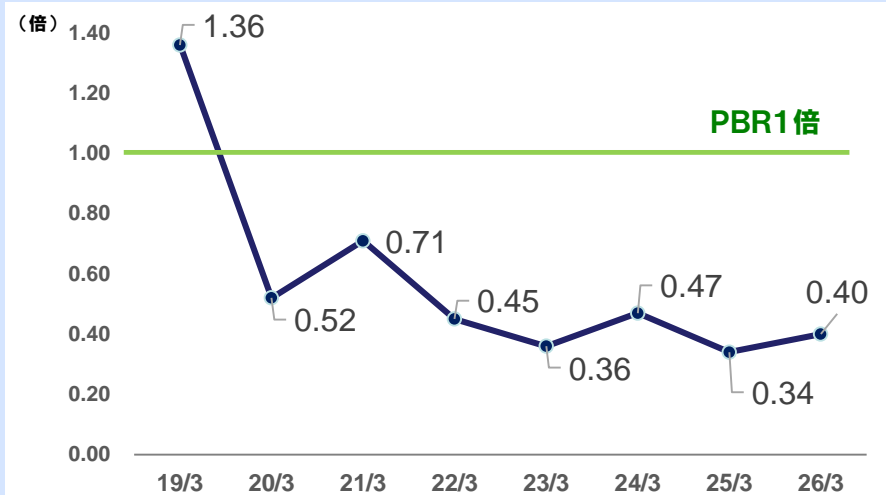
連結ROEの推移



新型コロナウイルス流行

中国子会社出資持分譲渡による特別損失計上

連結PBRの推移



■ 現状認識

- ・ 当期(2026年3月期)の連結ROEは、中長期目標で掲げる「12%以上」を達成
- ・ 今後も、持続的な成長を支えるための財務基盤を強化しつつ、ROE水準を維持・向上させていくことが重要
- ・ 2026年3月期は、ROEが当社が認識する株主資本コスト(10%程度)を上回る水準となったが、連結PBRは0.40倍に留まっており、依然として1倍を下回る評価が継続

■ PBR1倍割れの要因分析

- ① 成長性への期待感の不足
当社の将来的な収益成長に対して、市場から十分な期待を得られるに至っていない
- ② 財務基盤への懸念
様々に変化する事業環境の中においても安定して継続的に事業展開できる強固な財務基盤を確立し、市場からの更なる信頼獲得が必要

PBR1倍超の実現に向けた施策

「収益性の向上(ROE向上)」と「市場からの信頼獲得(株主資本コスト低減)」を両輪で推進し、PBR1倍超の実現を目指す

実施項目	関連施策	具体的な取り組み	期待される効果
事業の選択と集中	国内施策①②③ 海外施策①	・高付加価値領域への経営資源集中	<p>収益性の向上 (ROE向上)</p> <p>目標:2032年3月期 連結ROE12%以上</p>
生産性向上・原価低減	国内施策④ 海外施策②	・全社的なプロセス改善	
持続的成長力の強化	国内施策①②③④ 海外施策①②	・戦略的投資(研究開発・設備投資等)	
	運営施策①	・事業ポートフォリオの最適化 ・人的資本への投資	
経営リスクの低減 と情報開示	運営施策②③④⑤	・財務健全性の向上 ・ガバナンス体制の強化 ・ESG経営の推進と情報開示 ・積極的なIR活動	<p>市場からの信頼獲得 (株主資本コスト低減)</p> <p>連結ROEを下回る 水準を目指す</p>
株主還元の強化	配当方針	・累進配当の継続	

PBR1倍
超の実現

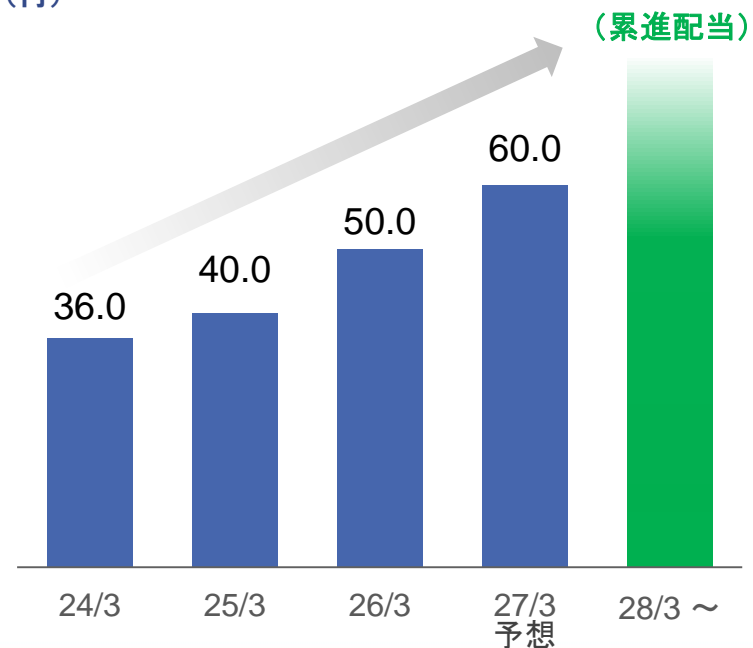
配当方針

当社は、企業価値を高めながら株主の皆様へ利益還元を図ることを経営の重要課題のひとつと考えております。事業の中長期的な展望のもと、企業価値向上に備えた投資の原資確保と財務体質の強化を図りつつ、**累進配当の継続**を基本方針といたします。

	1株当たり配当金			1株当たり純利益
	中間	期末	通期	
2024年3月期	18.0円	18.0円	36.0円	428.74円
2025年3月期	20.0円	20.0円	40.0円	▲808.20円
2026年3月期	25.0円	25.0円	50.0円	577.91円
2027年3月期 (予想)	30.0円	30.0円	60.0円	221.80円

通期配当金の推移

(円)





タカギセイコー

“願い”を“カタチ”に

[IR連絡先] 経営管理部

TEL 0766-24-5411 FAX 0766-23-3101

E-mail IR@nts.takagi-seiko.co.jp

<https://www.takagi-seiko.co.jp/>